

備前市議会報告会（令和6年第1回）実施報告書

開 催 日 時	令和6年8月9日（金） 9時55分開会 ～ 11時25分閉会	
開 催 場 所	岡山県立備前緑陽高等学校	
意 見 交 換	（議員からの質問）	（学校からの回答）
	○ 校長から見た、緑陽高校の強みは	● 総合学科が魅力の一つであり、幅広い科目選択が可能であることから、自分自身の進むべき道を決定できる。それに伴い、卒業後の進路も幅広い。部活動は他校にないものが多々ある。備前市の協力も得ながら、「びぜんみらい学」を実施している。様々なことに一生懸命取り組むことができる環境、一人一人が自分のやりたいことを全力で取り組めることが大きな魅力である
	○ 緑陽高校の魅力化の方針は	● 在校生の満足度、魅力を高めることを一番に考えている。そのために、分かる・できる授業、魅力ある授業づくりに取り組んでいる。また、社会貢献活動やボランティア活動など通じ、自己肯定感を高めていきたい。地元中学生にもこのような活動が口コミで広がるよう努めている。さらに、地域に愛され、必要とされる学校を推進していきたい
	○ 生徒募集の現状と考え方は	● 令和2年度から競争倍率が1.0倍を切る状況であり危機感を感じている。市内の中学校（備前・伊里・日生）からの進学率は、ここ10年約20％である。在校生の住所別では、岡山市が最も多く133名、次いで備前市の113名、瀬戸内市の89名となっている。地元の中学校別では、備前中が最も多く57名、次いで伊里中の29名、日生中の23名となっている（令和6年度学校要覧8頁参照）。地元の中学生に緑陽に行きたいと思わせる魅力づくりを進めていく

	○ 生徒・保護者が学校へ期待すること ○ 備前市に対する要望や期待すること、また地域に期待するところは	● 校則の見直し（頭髪や服装）、エアコン・トイレの改修、学食、弁当販売の実施など ● 手厚いサポート事業はありがたく感謝している。来年度以降もサポート事業を継続していただきたい。また、早めの決定をいただけることで、オープンスクールで中学生、保護者に伝えることができた。 高校生が立ち寄れるところがないので、立ち寄れる場所があれば良いと思う（西片上の活性化）
	○ 市や議員、地域に期待しているところは ○ 生徒が先生をどう評価しているのか ○ 生徒から見た緑陽高校サポート事業について ○ 部活動の道具購入にサポート事業を使ってはどうか	（生徒会副会長からの回答） ● 先日市民センターでリユース会があったが、とても良い事業であると思った。私は岡山から来ているが、地域で寄り添ってみんなで支え合っている感じが良かった ● 比較的勤務年数の長い先生が多く、緑陽の雰囲気慣れていて、いろんな面で理解してもらっている。また、学力にあった指導をしてくれている ● 緑陽に入学しようかどうか迷っていた時に、本助成事業が決め手となった（親がとても喜んだ） ギフト券とかは管理も大変であり、今のポイント還元で自由に使えるのがいい ● 用具等備品は、大体借り物で買わなくてすむが、本当にやりたいという生徒は自分で購入するため、費用の面ではありがたい。やってみたい部活動があっても、極力お金がかからないようにしてもらいたい

	○ こども議会に興味はあるか ○ 何か要望とかあるか ○ 校則は厳しいか ○ 西片上駅（トイレ）の改修について	● 意見がたくさん混じり合う中で、一つのことに向かって話す、明確にこれについて話したいというゴールが決まっているのであれば、それについていろいろ述べることは好きなので、興味はある ● 学校に通っていて、電車でうるさいとか、マックスバリュで騒がないでという問題があるので、飲食店が欲しい ● 校則がすごく厳しくて過ごしにくいと思ったことはない ● トイレを利用したことはあるが、よくある駅のトイレであり、早急に直して欲しいとは思わなかった
--	---	--